

～～第8730回～～

利尻山・礼文岳

～R1. 7. 30-8. 6～

7/30 晴。静岡空港に集合した8人は45分遅れのANAに乗り込む。飛行は順調で新千歳着は30分遅れとなった。そこからは予約済レンタカーの会社のバスで営業所へ移動し、車を受け取り出発。札幌市内のホテルに到着後、狸小路の居酒屋で夕食をとった。
静岡空港 1530-1710＝新千歳空港 1835-1905＝レンタカー営業所 1915＝札幌 2030

7/31 曇ときどき小雨。本日も移動日。道央道を経由し、名寄、音威子府、中川などの町を通過して稚内港フェリーターミナル着。慌ただしく昼食をとり乗船する。海は荒れ模様で船内を歩き回ると気持ちが少し悪くなった。礼文香深港着後、10分程度で民宿はまなすへ着いた。物腰柔らかな主人と率直な物言いのおかみさんが切盛りする宿で、食事はボリューム満点だった。礼文島は平地が少なく人家は海岸沿いにへばりついている。宿の部屋からは、荒れた海から霧が流れ来て山を駆け上がっていく様子が見られ、明日からの山行が心配になった。

札幌 740＝稚内港 1355-1455＝礼文香深港 1700＝宿 1710

8/1 曇ときどき晴ところにより霧。空は曇り、風は相変わらず強いため、まずは観光しながら天候の変化を見たとえで礼文岳登山をするかどうか判断することとした。西海岸にあるスコトン岬、澄海岬を巡ると、霧がややかかってはいたが様々な花を確認できた。礼文町高山植物園では冷蔵により花期を調整してレブンアツモリソウを咲かせているとのことだったが、残念ながら咲いているものはなかった。さて西海岸の天気は悪いが、礼文岳登山口のある東海岸は晴れているため、登山は決行することとした。礼文岳登山は内路の笹や草ばかりの海岸線からのピストンだ。初めは急登だが、次第に落ちていく。登山道にはヒヨドリバナが多い。ナデシコのピンクが鮮やかだ。樹林帯に入る頃にはゆったりとした道になって、気持ち良く歩みを進める。足元にアリドオシランの白い花が見られる。旧分岐(廃道となった起登臼コースへの分岐)で休んだ後、再び歩き始める。しだいに道は陰しくなり足をつる者ひとり。稜線に出ると濃霧が吹き付けてくる。それでも何とか頂上手前の小ピークに着く。頂上までは、ここから少し下った後、標高差約100mの急登だが、頂上はおろか5m先も良く見えない状態のため、撤退することにした。下山後は気分を変えて元地のメノウ浜でメノウ拾いをしたり地蔵岩を見物した後、宿へ帰った。

宿 725＝スコトン岬 830-50＝澄海岬 915-40＝礼文町高山植物園 1000-25＝内路登山口 1035…旧分岐 1135…頂上前小ピーク 1240…昼食 1300-15…旧分岐 1340…内路登山口 1435＝元地＝宿 1610

8/2 曇ところにより霧のち晴。礼文島にはトレッキングコースがいくつも整備されていて、今日はその代表的な桃岩展望台コースを歩く。宿の主人がレンジャーハウスのある桃岩口駐車場まで送ってくれた。霧が濃いため雨具の上衣だけ着て出発。高山植物の

宝庫と言われるだけあって、霧の中に様々な花が浮かび上がる。桃岩展望台までは歩きやすく整備されているが、その後はぬかるんだ道を注意深く歩きながら花の姿を追った。念願のレブンウスユキソウも見られた。知床口それから知床の集落へと下り、宿に着く。靴を洗い荷物をまとめ宿を出発。予約のフェリーにはまだ時間があるため、桃台猫台(=桃岩、猫岩を見る展望台)北のカナリアパークで観光後、香深港に着く。各自昼食後、利尻島鴛泊行のフェリーに乗船する。乗船中に天候はどんどん回復していき、利尻山の姿がくっきりと大きく見えるようになって、明日の登山に胸が高鳴った。鴛泊港着後、一度旅館雪国に入る。それからすぐに明日は登らない沓形コース登山口の見返台園地に行ってみる。岩峰鋭い利尻山が見える。予定どおり明日は鴛泊コースだ。宿から鴛泊コース登山口への道を確認した後、宿へ戻った。宿の料理は、やはり海の幸いっぱいの特にウニがおいしかった。

宿 800=桃岩口 P 830-40…桃岩展望台 855…知床口 1038…知床 1057…宿 1112=桃台猫台=北のカナリアパーク=礼文香深港 1325=利尻鴛泊港 1405=宿 1415=見返台園地 1455=宿 1625

8/3 晴。宿から車で 10 分程のところにある北麓野営場登山口を出発すると、まもなく甘露泉の水場がある。ここを過ぎるとツバメオモトの青い実が目につく。5 合目で宿で作ってもらった朝食をとる。木の間から礼文島が見える。6 合目の第 1 見晴台では眼下の展望が一気に開ける。上を見るとハイマツが多く森林限界かと思ったら間違いだった。樹木は段々と数を減らし樹高も低くなるが、登山道に飛び出ている枝もあり邪魔をしてくれる。6 合目から 8 合目の長官山まではどんどん急登になっていく。長官山では間近になった山頂の美しい姿を見て力をもらう。ここから利尻山避難小屋辺りまでは、このコースで唯一緩やかなアップダウンとなっていて気持ちよく歩くことができた。9 合目からは岩が多い急登で、また溶岩が小石となって滑りやすく歩きにくい。それでも順調に祠のある山頂に着く。登山中に我々を励ましてくれていた高山植物が山頂でも風に揺れていた。山頂の天候はおおむね良かったが、変化が激しく雲がかかったかと思ったら、次にはその雲も飛び去り下界がはっきりと見えるという具合だった。登頂記念の写真を撮ってから昼食。その後 O さんがおいしい梨をむいてくれた。感激！去り難い山頂に別れを告げ同じコースを下る。標高差 1500m 余を登り下りしたため疲労は激しかったが、冷たい甘露泉水が癒してくれた。ひとり足を痛めた(帰静後に骨折と判明)こともあり、登山口到着時刻は予定より少し遅くなってしまったが、好天に恵まれ高山植物も美しく咲き感激の登山だった。そして K さん、U さんは百名山達成だ。夕食時にワインでささやかに祝福した。

宿 420=北麓野営場(標高 207m) 440…5 合目(610m) 605-20…6 合目(760m) 647…7 合目(895m) 723…8 合目(1218m) 850…9 合目(1410m) 947…利尻山頂(1719m) 1052-1125…9 合目 1210…8 合目 1301…7 合目 1358…6 合目 1424…5 合目 1455…甘露泉 1700…北麓野営場 1730=宿 1740

8/4 晴のち曇。本日は予備日としてあったため島内一周の観光。宿の朝食はバイキングでイクラをのっけ丼にして食べた。反時計回りで沿岸部を回った。

宿 830＝高山植物展示園＝杓形岬公園＝神居海岸パーク＝オタトマリ沼(昼食)＝姫沼＝宿 1540

8/5 晴のち曇。利尻島を去り千歳へ移動する途中で観光を楽しんだ。稚内港着後、JR最北の稚内駅、間宮林蔵像のある宗谷岬を訪れた後、オホーツク海沿岸を走り、猿払村道の駅ふるさと公園で昼食。クッチャロ湖、浜頓別町から内陸へ入り音威子府村、その後は行きと同じ道に戻るコースをたどり千歳市内のホテルに着く。夜はKさん、Uさんなじみの居酒屋で盛り上がった。

宿 742＝鴛泊港 748-830＝稚内港 1010＝千歳 1815

8/6 晴。レンタカーを返し同社のバスで空港へ移動して帰静。

宿 725＝レンタカー営業所 745＝新千歳空港 755-1050＝静岡空港 1240

参加者：8名（静岡南5、静岡北1、藤枝2）

地図：礼文岳・香深・鴛泊・雄中志内

記録：静岡南支部 YM



長官山(鴛泊コース8合目)からの利尻山



オタトマリ沼と利尻山



チシマリンドウ